

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成18年7月20日(2006.7.20)

【公開番号】特開2005-13122(P2005-13122A)
 【公開日】平成17年1月20日(2005.1.20)
 【年通号数】公開・登録公報2005-003
 【出願番号】特願2003-183694(P2003-183694)
 【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月24日(2006.5.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遺伝子増幅試薬の安定化方法であって、遺伝子増幅反応に使用するキメラオリゴヌクレオチドプライマーと相補的な塩基配列を有するオリゴヌクレオチドを少なくとも一つ、遺伝子増幅反応液中に共存させることを特徴とする方法であって、当該オリゴヌクレオチドがDNA又はRNAオリゴヌクレオチド、あるいはDNA-RNAキメラオリゴヌクレオチドから選択され、かつ当該オリゴヌクレオチドと前記キメラオリゴヌクレオチドプライマーの間のTm値に対する、前記キメラオリゴヌクレオチドプライマーと該プライマーの塩基配列と相補的な標的遺伝子の核酸配列との間のTm値の比が、1.2~3.3の範囲であり、さらに当該オリゴヌクレオチドの3'末端が伸長できないようにブロックされたオリゴヌクレオチドであることを特徴とする方法。

【請求項2】

請求項1記載の方法のための増幅試薬ミクスチャーであって、

- (1) キメラオリゴヌクレオチドプライマー、
- (2) (1)のキメラオリゴヌクレオチドプライマーと相補的な塩基配列を有するオリゴヌクレオチドであって、当該オリゴヌクレオチドと前記キメラオリゴヌクレオチドプライマーの間のTm値に対する、前記キメラオリゴヌクレオチドプライマーと該プライマーの塩基配列と相補的な標的遺伝子の核酸配列との間のTm値の比が、1.2~3.3の範囲であり、さらに当該オリゴヌクレオチドの3'末端が伸長できないようにブロックされたオリゴヌクレオチド、
- (3) 鎖置換活性を有するDNAポリメラーゼ
- (4) RNase H、及び
- (5) 反応緩衝液
- (6) dNTPs

からなることを特徴とするミクスチャー。